

科目名		授業形態	担当教員名	
音声学 I		講義	大山 理恵	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
音声の基本的性質、発話産出過程、知覚のメカニズムについて学び、日本語の発音の特徴を理解し、国際音声記号(IPA)の知識を深めることを目的とする。 言語聴覚士に必要な音声学・音韻論の知識を復習し、それに基づき言語音の生成について学習する。				
授業の到達目標				
日本語の音声の特徴が理解できる。日本語の音節と拍について理解できる。 国際音声記号 (IPA) を用いて、日本語の音声を記述できる。音声を客観的、分析的に捉えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	音・音声学とは何か。音声の基本的性質、音声と音韻			
2	発音器官 (喉の働き・構音) と発生のしくみ			
3	国際音声記号(IPA)			
4	子音(1)破裂音・摩擦音			
5	子音(2)その他			
6	母音(1)母音の性質と基本母音			
7	母音(2)その他の母音と母音の無声化			
8	音節と拍(1)音節構造			
9	音節と拍(2)日本語の拍			
10	超分節的要素			
11	アクセント(1)アクセントの種類			
12	アクセント(2)日本語アクセントの特徴			
13	イントネーション			
14	音節と拍、IPAの復習			
15	総まとめと解説			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%	音声学・日本語の音声的特徴・IPA表記・音節と拍等の理解度を評価基準とする。		
レポート	10%	毎回の振り返りシート作成。テーマに沿ったレポート提出で評価する。		
小テスト	10%	授業時に行う復習テストによって評価する。		
平常点	20%	授業時に行う課題の取り組みや態度をもとに評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
日本語音声学入門【改訂版】	斎藤純男	三省堂		
自由記載	講義資料は適宜配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学	今泉 敏	医学書院		
シリーズ・日本語のしくみを探る② 日本語音声学のしくみ	町田 健 編	研究社		
自由記載	参考になる、その他の書籍、HP、アプリ等は、適宜、授業時に紹介する。			
備考				
日々、様々な音に関心を持ち、音の魅力を感じ、積極的な態度での受講を希望する。				